

Asahi**KASEI**

グループ事業のご報告

第127期上半期決算

2017.4.1 — 2017.9.30

証券コード:3407

旭化成株式会社

グループ理念

私たち旭化成グループは、
世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します。

時代環境や社会の求めるものが変わっても、変わることなく、
旭化成グループとして永遠に追求し続けるもの。
それは世界の人びとを想い続けることに他なりません。

グループビジョン

「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、
社会に新たな価値を提供していきます。

グループバリュー

【誠実】：誰に対しても誠実であること。
【挑戦】：果敢に挑戦し、自らも変化し続けること。
【創造】：結束と融合を通じて、新たな価値を創造すること。

グループスローガン

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。
それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。
創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、
次の時代へ大胆に伝えていくために一。
私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

ごあいさつ

“グループ事業のご報告”をお届けするにあたり、
一言ごあいさつ申し上げます。

2017年度上半期における世界経済は、米国や日本
において、堅調な成長が続き、欧州でも緩やかな景気
回復が続きました。また、中国を含むアジアにおいて
も、景気は持ち直しの動きが見られました。

このような状況の中で、当上半期の当社グループの
連結業績は、アクリロニトリルなどの石油化学製品や
低燃費タイヤ向け合成ゴムなどにおける交易条件の改
善、リチウムイオン二次電池用セパレータやカメラモ
ジュール用電子部品などのエレクトロニクス事業にお
ける販売数量の増加などにより、前年同期比で増収・
増益となりました。また、営業利益、経常利益、四半期
純利益につきましては、上半期として過去最高を更新し
ました。これに伴い、当上期末の配当は、業績および
配当に関する方針を踏まえ、1株につき前中間期に比
べ4円増配の14円とさせていただきます。加えて、期

未配当予想につきましても、2円増配の14円とし、通
期で1株あたり28円の配当を予定しています。

当社グループでは現在、昨年4月に策定した2018年
度を最終年度とする3か年の中期経営計画『Cs for
Tomorrow (シーズ・フォー・トゥモロー) 2018』を
進めています。この計画は、当社グループが取り組む
主要テーマを「クリーンな環境エネルギー社会」
(Environment)、「健康・快適で安心な長寿社会」
(Social) の実現と定め、当社グループが多角的な事
業を通じて社会に貢献していくことを目指すものです。
また、当社グループは、2025年に「収益性の高い付
加価値型事業の集合体」となるよう、2018年度まで
の3か年で飛躍の基盤をつくることとしており、具体
的には、「成長・収益性の追求」「新事業の創出」「グ
ローバル展開の加速」を最適な体制 (Governance)
で進めています。

今後も「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に



取締役会長

伊藤 一郎

代表取締役社長

小堀 秀毅

貢献」すべく、「ESG」*の観点を重視し、さらなる企
業価値の向上と持続的成長を図ってまいりますので、
引き続き株主の皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう
心からお願い申し上げます。

2017年11月

*ESG (Environment=環境、Social=社会、Governance=企業統治)

To Our Shareholders

2017年度上半期決算ハイライト

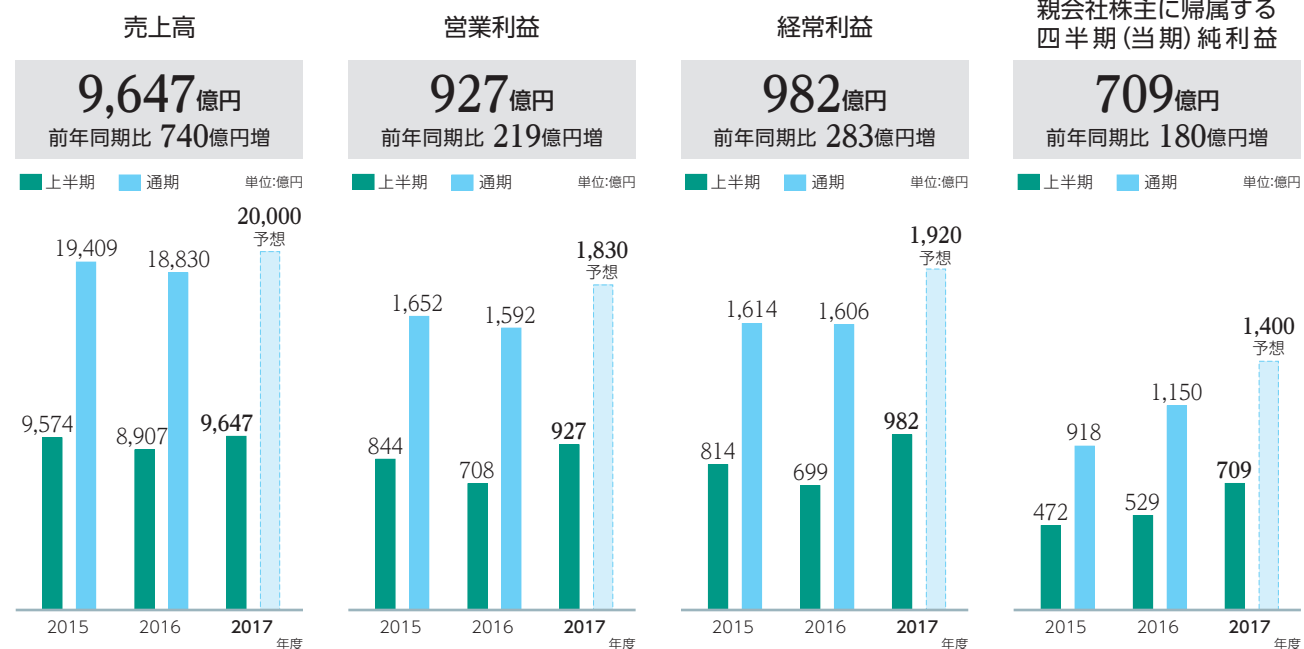
H I G H L I G H T S

売上高は増収、営業利益・経常利益・四半期純利益は過去最高を更新。

当社グループの当上半期(2017年4月～9月)における連結業績は、「マテリアル」セグメントにおいてケミカル事業の取引条件が改善したことに加え、各事業の販売も好調に推移したことなどから、売上高は9,647億円で前年同期比740億円(8.3%)の増収、営業利益は927億円で前年同期比219億円(30.9%)の増益、経常利益は

982億円で前年同期比283億円(40.5%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は709億円で前年同期比180億円(33.9%)の増益となりました。

なお、当上半期の中間配当につきましては、業績および配当に関する方針を踏まえ、前中間期比4円増配の14円とさせていただきます。



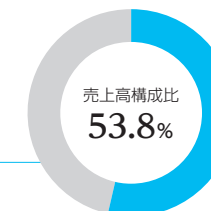
※ 2017年度通期の予想値は、2017年11月7日時点のものです。

セグメント別 決算ハイライト

事業活動の状況をお知らせします。

Material Segment

マテリアル セグメント



売上高は5,189億円で前年同期比549億円(11.8%)の増収となり、営業利益は607億円で前年同期比218億円(56.0%)の増益となりました。

売上高 **5,189** 億円 (前年同期比 **11.8%** 増)

営業利益 **607** 億円 (前年同期比 **56.0%** 増)

【繊維事業】

原燃料価格高騰の影響を受けましたが、キュプラ繊維「バンベルグ™」やマイクロファイバースエード「ラムース™」などの業績が好調に推移し、前年同期比増収、増益となりました。

【ケミカル事業】

石油化学事業では、アクリロニトリルなどの取引条件が改善し、前年同期比増収、増益となりました。

高機能ポリマー事業では、合成ゴムにおいて取引条件が改善し、エンジニアリング樹脂の販売が順調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

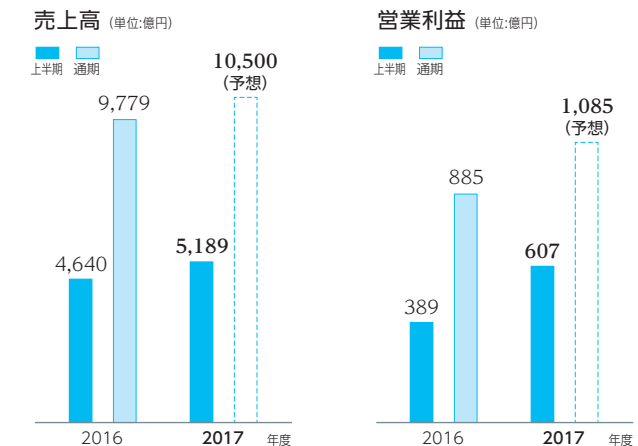
高機能マテリアルズ事業・消費財事業では、イオン交換膜や電子材料製品などの販売数量が増加したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

【エレクトロニクス事業】

セパレータ事業では、リチウムイオン二次電池用セパレータを中心に各製品の販売数量が大幅に増加したこと

などから、前年同期比増収、増益となりました。

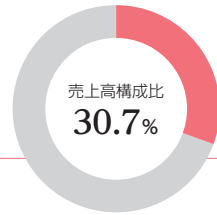
電子部品事業では、カメラモジュール用電子部品や家電向け磁気センサなどの販売が順調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。



(注) 2017年度より従来「その他」に含めて開示していたエネルギー関連部門を「マテリアル」セグメントに移管したことに伴い、2016年度の数値を組替えて表示しております。

Homes Segment

住宅 セグメント

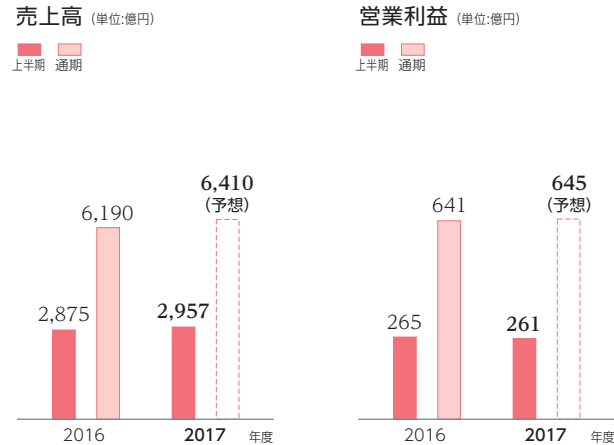


売上高は2,957億円で前年同期比83億円(2.9%)の増収となり、営業利益は261億円で前年同期比3億円(1.5%)の減益となりました。

売上高 **2,957** 億円 (前年同期比 2.9%増)
営業利益 **261** 億円 (前年同期比 1.5%減)

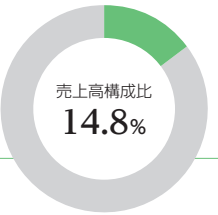
住宅事業では、建築請負部門で戸建住宅「ヘーベルハウス™」の引渡棟数が増加したものの、集合住宅「ヘーベルメゾン™」の引渡棟数が減少し、労務費などの販管費が増加したことなどから、前年同期比減収、減益となりました。また、不動産部門の賃貸管理事業やリフォーム部門の外壁塗装工事の受注などが堅調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

建材事業では、フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」の販売数量が堅調に推移したものの、原材料価格高騰の影響を受け、前年同期比売上高は増収、営業利益は前年並みとなりました。



Health Care Segment

ヘルスケア セグメント



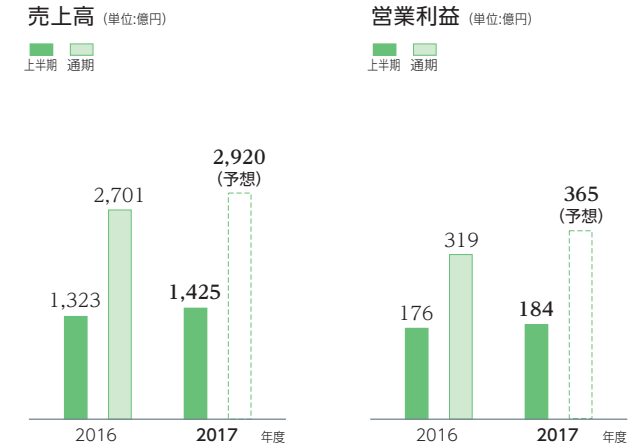
売上高は1,425億円で前年同期比102億円(7.7%)の増収となり、営業利益は184億円で前年同期比9億円(4.5%)の増益となりました。

売上高 **1,425** 億円 (前年同期比 7.7%増)
営業利益 **184** 億円 (前年同期比 4.5%増)

医薬事業では、骨粗鬆症治療剤「テリボン™」などの販売数量が増加しましたが、排尿障害改善剤「フリバス™」が後発医薬品の影響を受けたことなどから、前年同期比減収、減益となりました。

医療事業では、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の販売数量が減少したものの、血液浄化事業が堅調に推移したことや円安の影響を受けたことなどから、売上高、営業利益ともに前年同期並みとなりました。

クリティカルケア事業では、医療機関向け除細動器の販売数量が増加し、着用型自動除細動器「LifeVest™」の業績が堅調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。



Other

その他

売上高は76億円で前年同期比6億円(8.6%)の増収となり、営業利益は7億円で前年同期比2億円(22.2%)の減益となりました。

特集

走るコンセプトカー「AKXY™(アクシー)」について



AKXY

ついに始動



「お披露目の様子」
(写真右:代表取締役社長 小堀 秀毅)



お客さまと共に自動車の未来をつくる

当社は、本年5月、EVメーカーであるGLM株式会社との共同開発により、「自動車の安全・快適・環境への貢献」をテーマとし、当社グループの自動車関連部材を搭載したコンセプトカー「AKXY™(アクシー)」を完成させました。

当社は今後も自動車関連のお客さまと連携(Connect)を深め、自動車の安全性、快適性の向上、環境への貢献に応じた多様なキーアイテムを総合的に提案してまいります。



【名前とロゴの由来】

名前の由来は旭化成(AK)掛ける(×)お客さま(You)でつくる新しい未来。

エンブレムは完全燃焼すると赤から青へと転じる炎をモチーフとし、情熱の赤を超える情熱で生まれたコンセプトカーを象徴。



「AKXY™」には、金属材料の代替として自動車の軽量化を実現するエンジニアリング樹脂や、快適性に優れたカーシート用人工皮革、各種音声処理技術を利用した車内コミュニケーションシステムなど、当社の多岐にわたる部材やシステムを27品目搭載しており、その多くは量産車への導入が可能なものです。

また、ドライバーの脈波を無意識下で検出することができる非接触バイタルセンシングシステムや、車内の空気環境をセンシングするCO₂センサーなど、安全運転や事故防止といった自動車業界のトレンドにおいて、今後実用化の可能性をもつ最先端技術も搭載しています。

「AKXY™」搭載品リスト

| 搭載箇所 | 当社製品/技術名 | 一般名称 |
|-----------------------|-------------------------|---------------------------|
| ① ヘッドランプカバー | 有機無機ハイブリッドコート剤 | — |
| ② ヘッドランプ(ランプエクステンション) | ザイロン™ | 変性ポリフェニレンエーテル樹脂 |
| ③ タイヤ | タフデン™ (S-SBR) | 溶液重合型スチレンブタジエンゴム |
| ④ タイヤコード | レオナ™ | ナイロン66繊維 |
| ⑤ フェンダーライナー(吸音材) | プレシゼ™ | スパンボンド法長繊維不織布 |
| ⑥ ボディー用塗料 | 旭化成アルミペースト™ | アルミニウムペースト |
| ⑦ ボディー用塗料 | デュラネート™ (HDI) | HDI系ポリイソシアネート |
| ⑧ テールランプ | デルペット™ | アクリル樹脂 (PMMA) |
| ⑨ コックピット | WGF™ | 反射型偏光フィルム |
| ⑩ コックピット | 曇り止めセンサー | — |
| ⑪ システム | 脈波センシング | — |
| ⑫ システム | スタンドアロン音声認識システム | — |
| ⑬ システム | ハンズフリー | — |
| ⑭ システム | 車内コミュニケーションシステム | — |
| ⑮ システム | CO ₂ センサー | — |
| ⑯ Aピラー | タフテック™ | 水添スチレン系熱可塑性エラストマー (SEBS等) |
| ⑰ スイッチ周り | マルチコアPOF™ | プラスチック光ファイバー |
| ⑱ カーマット | PTT繊維使用カーマット | カーマット |
| ⑲ コネクタ・結束バンド類 | レオナ™ | ポリアミド樹脂 |
| ⑳ スピーカーカバー | エステロイ™ | ABS系アロイ樹脂 |
| ㉑ シート底面等 | フュージョン™ | 3次元立体積物 |
| ㉒ ヘッドレスト | メフ™ | 発泡ポリエチレン |
| ㉒ カーシート | ラムース™ | マイクロファイバースエード |
| ㉒ 表皮素材 | エルタス™ | スパンボンド法長繊維不織布 |
| ㉓ インサイドドアハンドル | テナック™ (メタリック調、低VOCグレード) | ポリアセタル樹脂 |
| ㉓ ドリンクホルダー | サンフォース™ | 変性ポリフェニレンエーテル樹脂 発泡ビーズ |
| ㉔ バッテリーセパレータ | ハイボア™ | リチウムイオン二次電池用セパレータ |

Comment

今回開発されたコンセプトカー「AKXY™」は、「私たち旭化成とお客さまが掛け合うことで、新しい価値や未来を生み出すための車」という思いを込めています。

この「AKXY™」では旭化成の27製品の技術を搭載しております。すでに量産車に採用できる製品や、未来の車のための提案など幅広く使用いたしました。その範囲はエクステリアやインテリア、その他システムにも至っています。

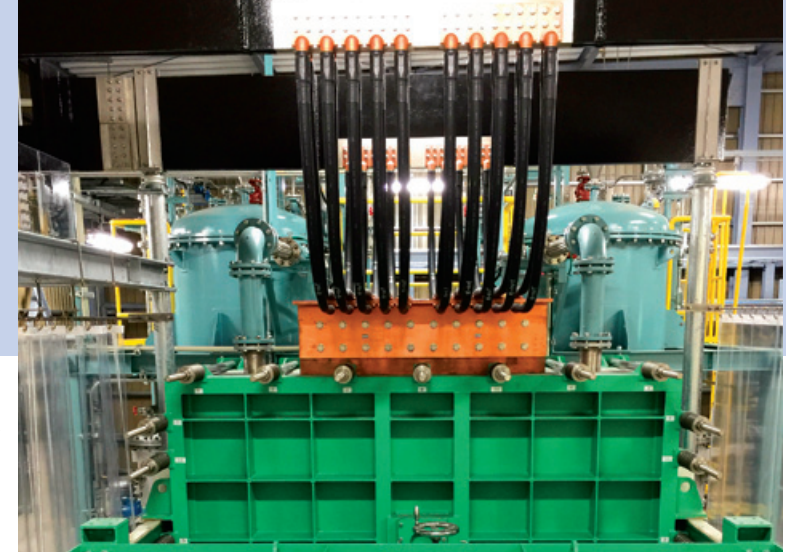
今後は、自動車メーカーや、自動車部品メーカーの方と連携を深め、「AKXY™」に乗っていただき、旭化成グループの総合力を実感していただくことで、多様なキーアイテムの採用へとつなげ、自動車産業における一歩先の未来を提案していきたい—そう考えています。



オートモーティブ事業推進室長
宇高 道尊

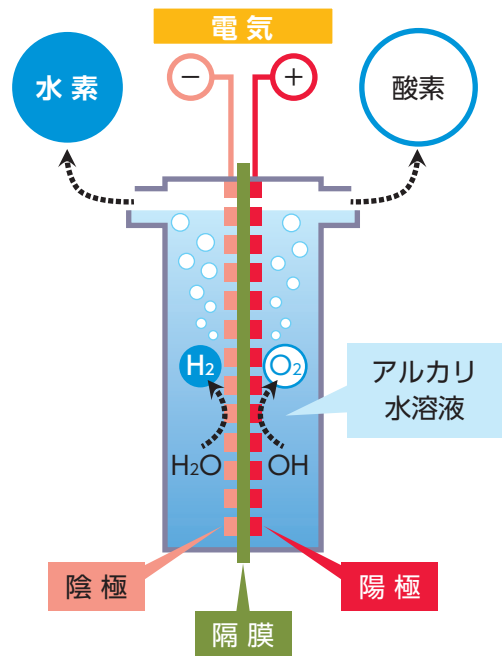
アルカリ水電解水素製造システム、 実証活動本格化へ

当社がコア技術を結集して開発したアルカリ水電解水素製造システムは、商用サイズで世界最高のエネルギー効率を誇り、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーによる電力からCO₂フリーの「グリーン水素」を製造し、将来の水素社会の実現に貢献していくことを目指しています。既に国内の実証設備で水素の安定量産の確認に成功しており、国内外の複数のプラントから引き合いが寄せられています。2017年度中にもドイツ西部のノルトライン・ヴェストファーレン州の環境都市であるヘルテン市に実証設備を設ける予定です。



電気容量10MWを見据えた実証装置▶
(神奈川県横浜市)
2015年11月運転開始
NEDOの委託事業として実施

アルカリ水電解の概念図



再生可能エネルギーを水素に変換するシステム



再生可能エネルギー

大量導入により出力が不安定に

水電解によるエネルギー変換



電気

水素

Power to Gas

CO₂フリー
水素



燃料電池自動車

水素発電

クリーンエネルギー
(メタン・メタノール)

○
○
○
etc.

POINT

当上半期末の総資産は、投資有価証券が313億円、受取手形及び売掛金が191億円、現金及び預金が180億円、たな卸資産が176億円増加したことなどから、前年度末に比べて804億円増加し、2兆3,349億円となりました。

有利子負債は、支払手形及び買掛金が146億円、前受金が94億円増加したものの、有利子負債が246億円減少したことなどから、前年度末に比べて8億円減少し、1兆856億円となりました。

純資産は、配当金の支払が196億円あったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を709億円計上したことや、為替換算調整勘定が131億円、その他有価証券評価差額金が126億円増加したことなどから、前年度末に比べて812億円増加し、1兆2,493億円となりました。
この結果、自己資本比率は52.8%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払280億円、売上債権の増加162億円、たな卸資産の増加152億円などの支出があったものの、税金等調整前四半期純利益1,017億円、減価償却費458億円、仕入債務の増加125億円、前受金の増加94億円などの収入があったことから、1,150億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、貸付金の回収による収入279億円、投資有価証券の売却による収入63億円などがあったものの、有形固定資産の取得による支出368億円、貸付けによる支出367億円、投資有価証券の取得による支出92億円などがあったことから、530億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入57億円などの収入があったものの、社債の償還による支出200億円、配当金の支払196億円、長期借入金の返済による支出121億円などがあったことから、459億円の支出となりました。

これらに加え、現金及び現金同等物に係る換算差額による増加11億円などがあったことから、**現金及び現金同等物の四半期末残高**は、前年度末に比べ175億円増加し、1,616億円となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位：億円

| 科目 | 当上半期 | 前 期 | 前上半期 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|
| | 2017年9月30日現在 | 2017年3月31日現在 | 2016年9月30日現在 |
| ●資産の部 | | | |
| 流動資産 | 9,504 | 8,945 | 8,285 |
| 固定資産 | 13,845 | 13,600 | 12,886 |
| 有形固定資産 | 5,623 | 5,569 | 5,451 |
| 無形固定資産 | 4,491 | 4,628 | 4,336 |
| 投資その他の資産 | 3,732 | 3,403 | 3,099 |
| 資産合計 | 23,349 | 22,545 | 21,171 |
| ●負債の部 | | | |
| 流動負債 | 6,044 | 5,949 | 5,966 |
| 固定負債 | 4,812 | 4,915 | 4,842 |
| 負債合計 | 10,856 | 10,864 | 10,808 |
| ●純資産の部 | | | |
| 株主資本 | 10,810 | 10,301 | 9,820 |
| 資本金 | 1,034 | 1,034 | 1,034 |
| 資本剰余金 | 794 | 794 | 794 |
| 利益剰余金 | 9,021 | 8,505 | 8,024 |
| 自己株式 | △ 39 | △ 32 | △ 32 |
| その他の包括利益累計額 | 1,507 | 1,212 | 390 |
| 非支配株主持分 | 175 | 168 | 152 |
| 純資産合計 | 12,493 | 11,681 | 10,363 |
| 負債純資産合計 | 23,349 | 22,545 | 21,171 |

連結損益計算書(要旨)

単位：億円

| 科目 | 当上半期 | 前上半期 | 前 期 |
|----------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 2017年4月1日～ 2017年9月30日 | 2016年4月1日～ 2016年9月30日 | 2016年4月1日～ 2017年3月31日 |
| 売上高 | 9,647 | 8,907 | 18,830 |
| 売上原価 | 6,515 | 6,109 | 12,963 |
| 売上総利益 | 3,132 | 2,798 | 5,867 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,206 | 2,091 | 4,275 |
| 営業利益 | 927 | 708 | 1,592 |
| 営業外収益 | 108 | 68 | 153 |
| 営業外費用 | 53 | 77 | 139 |
| 経常利益 | 982 | 699 | 1,606 |
| 特別利益 | 63 | 39 | 101 |
| 特別損失 | 27 | 31 | 133 |
| 税金等調整前純利益 | 1,017 | 707 | 1,574 |
| 法人税等 | 297 | 170 | 407 |
| 四半期(当期)純利益 | 720 | 537 | 1,167 |
| 非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益 | 損11 | 損8 | 損17 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 | 709 | 529 | 1,150 |

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：億円

| 科目 | 当上半期 | 前 期 | 前上半期 |
|-----------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 2017年4月1日～ 2017年9月30日 | 2016年4月1日～ 2017年3月31日 | 2016年4月1日～ 2016年9月30日 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 1,150 | 1,690 | 904 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 530 | △ 899 | △ 505 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 459 | △ 740 | △ 434 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 11 | △ 68 | △ 100 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | 172 | △ 17 | △ 134 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 1,441 | 1,453 | 1,453 |
| 連結範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少) | 3 | 4 | 4 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 | 1,616 | 1,441 | 1,323 |

ホームページのご紹介

旭化成 決算 説明会 検索

最新の決算説明会の内容を、音声およびスライド資料にてご確認いただけます。

「音声+スライド」
をクリック!!

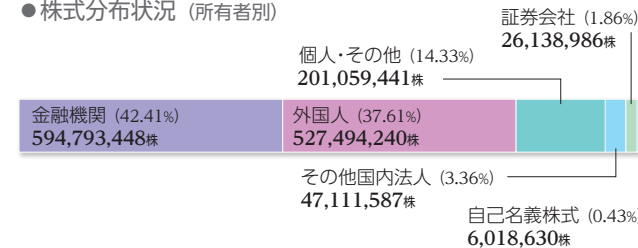
【会社概要】

商号 旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
 設立年月日 1931年5月21日
 資本金 103,388,521,767円
 主要事業 ケミカル・繊維、住宅・建材、エレクトロニクス、ヘルスケア等の事業
 本社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
 連結対象子会社 174社
 持分法適用会社 55社
 URL http://www.asahi-kasei.co.jp/

【役員】

| | | | |
|----------------|--------|-------|-------|
| 取締役会長 | 伊藤 一郎 | 常勤監査役 | 小林 友二 |
| 代表取締役社長兼社長執行役員 | 小堀 秀毅 | 常勤監査役 | 城戸 信介 |
| 代表取締役兼副社長執行役員 | 中尾 正文 | 社外監査役 | 真壁 昭夫 |
| 取締役兼常務執行役員 | 坂本 修一 | 社外監査役 | 伊藤 鉄男 |
| 取締役兼上席執行役員 | 柿澤 信行 | 社外監査役 | 小西 彦衛 |
| 取締役兼上席執行役員 | 橋爪 宗一郎 | | |
| 社外取締役 | 市野 紀生 | | |
| 社外取締役 | 白石 真澄 | | |
| 社外取締役 | 立岡 恒良 | | |

● 株式分布状況 (所有者別)



【株式の状況】

発行可能株式総数 4,000,000,000 株
 発行済株式の総数 1,402,616,332 株
 株主数 72,723 名

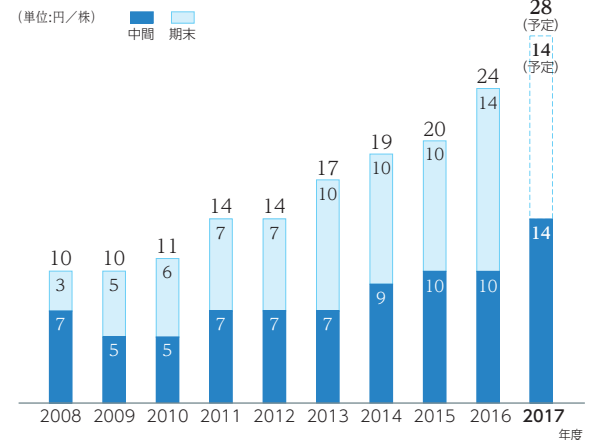
● 大株主 (上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| JP MORGAN CHASE BANK 380055 | 110,377 | 7.90 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 75,852 | 5.43 |
| 日本生命保険相互会社 | 65,700 | 4.70 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 54,021 | 3.87 |
| 株式会社三井住友銀行 | 35,404 | 2.54 |
| 旭化成グループ従業員持株会 | 33,387 | 2.39 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 26,503 | 1.90 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 24,666 | 1.77 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7) | 20,736 | 1.48 |
| STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234 | 20,634 | 1.48 |

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を除いた数に対する割合を示しています。

【配当の年度推移】 (1株当たり)

2017年度につきましては、業績予想をふまえ、1株あたり28円を予定しています。今後も配当性向3割を目安に、「Cs for Tomorrow 2018」の実現を通じて企業価値の向上に努め、株主の皆様へ積極的な還元を図ってまいります。



クローズアップ
Close Up



完成予想エントランスパース

四谷コーポラス外観

日本での民間分譲マンション第一号
「四谷コーポラス」の建替え事業に参画

旭化成は戸建事業で培った1組1組のお客さまとの合意形成力を生かし、区分所有者の高齢化などを理由に建替えが困難とされる高経年マンションについて、トップクラスの建替え実績を積み上げており、高い信頼を得ています。このたび、日本初の民間分譲マンションとされる「四谷コーポラス」の建替え事業に参画することとなりました。

日本初の民間分譲マンションとされる「四谷コーポラス(東京都新宿区)」では、管理組合による建替え決議が本年3月に成立し、9月に解体工事に着手しました。旭化成ホームズ子会社の旭化成不動産レジデンスは、事業協力者として参画し、2019年の再建マンション完成を目指します。

「四谷コーポラス」は、民間企業が初めてファミリー向けに割賦販売したマンションとされ、これにより高額なマンションが庶民に普及する先駆けとなったと考えられています。竣工当時の1956年には珍しかった、1つの住戸が上・下階にわたって配置される「メゾネットタイプ」やフローリング敷

き、各戸浴室が取り入れられたほか、管理人によるクリーニングの取り次ぎなど現在のサービス付きアパートメントのようなサービスの提供が民間によって初めて試みられました。このような魅力的なマンションだったこともあり、分譲当時の購入者が長く所有し、昔からつながる住民同士の関係も健在で活発な管理組合活動が維持されたため、建替え決議も短期間に可能となったほか、区分所有者の9割が再建後のマンションを再取得予定であることも特徴です。

旭化成不動産レジデンスは、解体前の9月5日に「四谷コーポラス」の歴史やこれまでの管理の実態、建替え決議に至る経緯についてマスコミ向け説明会を行ったほか、引き続き9月10日まで解体前の建物を一般公開し、学術関係者や建築家、マスコミを含む500名超が見学に訪れました。訪問者からは、共用部や住戸設備デザインの詳細な見学を通じて、住戸毎に考え抜かれた当時の設計者の思想に触れることができ、今後の研究や提案に大いに参考になったとご評価を頂きました。

旭化成不動産レジデンスは今後も高経年マンションの建替えなどを通じ、都市の住まいにおける社会課題の解決に貢献してまいります。



マスコミ向け記者会見の様子

株式メモ

| | |
|------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月下旬 |
| 基準日 | 定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 |
| 公告方法 | 電子公告 http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html |
| 株主名簿管理人・特別口座管理機関 | 三井住友信託銀行株式会社 (連絡先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 ☎ 0120-782-031 (平日9時~17時) |

特別口座の株式の振替え

特別口座とは

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)に預託されていた株式は、三井住友信託銀行に開設された「特別口座」にて記録されています。「特別口座」に記録されている株式は、株式市場で売却できません。売却される場合には、証券会社に株主さま名義の取引口座を開設して株式を振り替える必要があります。

振替え手続きについては、三井住友信託銀行にお問合せください。

単元株式数変更のお知らせ

当社は、本年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

これにより、

- 証券取引所における株式の売買単位が100株となりました。売買単位が10分の1となりますので、購入しやすくなりました。
- 株主総会における議決権行使が100株からできるようになりました。
- 単元株式数の変更により株主の皆様に行っていただく手続きは特
ありません。

旭化成株式会社

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
<http://www.asahi-kasei.co.jp>

配当金について

ゆうちょ銀行領収証方式の取扱期限

第127期中間配当金について、ゆうちょ銀行領収証方式にて配当金をお受取りの株主さまは、2018年1月12日(金)までにゆうちょ銀行にてお受取りください。

除斥期間

配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受取りください。

未受領の配当金

支払開始の日から満3年を経過していない未受領の配当金は、三井住友信託銀行よりお支払いいたしますので、三井住友信託銀行にお問合せください。

口座振込でのお受取り

配当金のお受取りにあたっては、安全・確実な口座振込のご利用をお奨めいたします。

単元未満株式の買取・買増 住所・氏名の変更、配当金受領方法の変更

単元未満株式の買取・買増、住所・氏名の変更、配当金受領方法の変更について

- 証券会社に口座開設されている株主さま
口座を開設されているお取引証券会社にお問合せください。
- 特別口座に記録されている株式の株主さま
三井住友信託銀行にお問合せください。

※単元未満株式の買取・買増について

単元未満株式(1株~99株)は株式市場で売買することはできませんが、当社に対して市場価格でその買取りを求める制度(買取請求)、1単元まで不足する株式を当社から市場価格で買い増す制度(買増請求)をご利用いただけます。

